

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171500671		
法人名	医療法人社団 森生会		
事業所名	グループホーム「もりの家」花ユニット		
所在地	北海道茅部郡森町字上台町330-85		
自己評価作成日	平成23年8月1日	評価結果市町村受理日	平成23年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームに看護師が1名配属されており、利用者様の健康管理も配慮しながらケアにあたっています。隣に、森の里病院があり、健康管理や緊急時には24時間、医療との連携もとりやすく、安心して生活を送ることが出来ます。また、食べることの楽しみを大切に考え、栄養士が配置されており、栄養・見た目・雰囲気大切に、利用者様の希望を取り入れながら、栄養面からのケアにも力を入れています。地域のお店の協力を得て外食に行ったり、ホームにお寿司屋さんに訪問していただき握り寿司を目の前で握っていただいたりしています。屋外での食事、一緒におやつを手作りしたり、食べて健康でいられることを重視しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171500671&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成23年9月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、四季の移り変わりを間近に感じられる自然環境に恵まれた森町郊外に立地している。建物は平屋建てで、2ユニットの職員同士が連携を取りつつ、利用者のケアに当たっている。隣接する母体法人「森の里病院」が、24時間態勢で利用者の健康管理や急変時の対応を行っており、利用者、家族の安心につながっている。職員は、利用者とともに地域行事に参加して地域交流に努めている。また、実習生の受け入れなど、地域の人材育成にも貢献している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「家庭的な環境と地域住民との交流のもと、絶えず笑顔のある安心した暮らしが出来るよう支援します」を念頭に置き、日々のケアに努め、朝礼やミーティングなどを行い職員間で共有されている。	管理者は、「笑顔のある安心した暮らし」を提供できるよう日々指導し、全ての職員が理念を共有してケア実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は少ないながらも、法人の夏祭りや、町内会の盆踊り等を通じ、気軽な交流が出来るように努めている。町内の保育園に、利用者様が作成した雑巾を寄付したこともある。	町内会に加入し、盆踊り、敬老会などに利用者に参加するほか、毎月の事業所行事に地域ボランティアの協力を得るなど、地域との交流は活発である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	森町の介護事業所等へご案内し、地域の高齢者等の暮らしに役立つことが無いか話し合い、取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日ごろの様子を写真や説明で利用者の様子を知っていただき、そこでの意見等を議事録に残し活用している。運営推進委員の意見を参照し、改善・努力している。	運営推進会議は定期的開催し、行事内容や利用者の様子、評価への取り組みを報告している。委員からの意見や提案は職員間で話し合い、サービス向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等を通じ、円滑な連携をとらせていただいております。ともにサービスの質の向上に向け努力している。	行政主催の会議や研修に参加するほか、日頃から地域包括支援センターや福祉課、保護課担当者と連携して、サービスの質の向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフに対して、禁止の対象となる具体的な行為に関して正しく理解してケアに当たるように周知している。玄関の施錠は防犯上夜間のみ行なっている。	年1回、身体拘束に関する研修を実施して、職員に周知徹底を図っており、身体拘束のないケアに取り組んでいる。日中、玄関の出入りは自由に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての知識やモラルを持ち、マニュアルや日々のミーティング等を通じ理解の共有を図り、ケアに従事している。言葉遣いについてもスタッフ間でお互いに気をつけあっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人職員は地域権利擁護や成年後見制度についての勉強会等に参加しており、現在必要とされている方はいらっしゃらないが、必要な際にはそれらを活用できる状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用者・家族に対し、契約内容を正確に理解していただけるよう、疑問点や不明な点についても、本人の納得のいく説明、家族の理解をもとめている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、面会時やお便りなどで相談や日常生活の様子を情報提供という形で報告し、運営推進会議での委員のご意見を基に改善と努力をしている。申し送りなどでも話し合う機会を作っている。	運営推進会議のほか、面会時や電話連絡時に家族からの意見や要望の聴取に努め、運営に反映させている。意見箱を設置しているが、意見が寄せられたことはない。	会議への参加者がほぼ固定しているなど、事業所側でも全家族の要望を把握しきれていないという思いがある。今後は、多様な家族の参加やアンケートなどの取り組みに期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不満や苦情などを常に言い合える環境作り、よりよい信頼関係を心がけ都度ミニカンファレンス等を開催している。定期的なカンファレンスのほか、常に職員の意見や提案には耳を傾けている。	管理者は、定期カンファレンスやミニカンファレンスの際に職員が自由に意見や提案を述べる機会を設け、プランや行事内容に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制や勤務が変更になっても対応できる環境作りや、職員の相談を常に受け入れる環境作りや職員交流事業も取り入れストレスの軽減に向け取り組んでいる。職員がやりがいをもって働けるような環境づくり、推進している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等を通じ、職員のスキルアップを図っている。研修後は法人内でも研修結果を報告してもらい、職員間で情報共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協議会のブロックでの交流会や、他のグループホームへの視察や実習を行っており、サービスの質を向上させていくような取り組みを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントや家族からの生活習慣情報、本人からは交流を密に持ちながら聞き取りを行ない、会話を中心にご本人の気持ちを察せられるよう心がけながら、関わりを持つことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際はもちろん、来所時は声かけし電話や書類でもご家族様のニーズを引き出せるよう心がけている。ご家族等からも気軽にいつでも話ができる環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様の立場に立ち、その時々に必要な支援を見極める努力をし、その実施を推進している。都度、説明や相談に応じていくことを心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にある利用者様の笑顔を大切にしながら、家庭的な雰囲気を作り、暮らしを支えるよう取り組んでいる。出来る部分は利用者様にも手伝っていたり、協力し合っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と共に考え、よりよいケアに向け取り組んでいる。本人とご家族とのよりよい関係が継続していただけるよう取り組んでいる。来所時やお便りなどで情報の共有を行ないながら共に支えていけるよう取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所されてからも、大切な関係が損なわれないような支援を考え、その実施に向け取り組んでいる。馴染みのものなどを持ってきていただき、より自宅での生活に近い環境でのサービスを心がけている。	馴染みの美容院やレストランに出かけたり、家族と墓参りに行くなど、利用者がこれまでの習慣を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の目線で物事を考えながら、お互いが支えられるような関係を考慮し、状況に応じて職員が間に入り、その関係を大切にさせていただけるような取り組みを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者様や、ご家族様とも、退所されても気軽に遊びに来ていただけるよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族様の意見や希望にそってケアできるよう取り組んでいるが、本人からの希望の把握は困難な事も多く、家族の意向を聞きながら支援している。	利用者の意向を日々確認し、自己決定や自己選択を尊重したケアに努めている。困難な場合は家族の意向を基に、その人らしい暮らしを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様や各種機関、ご友人などから機会があるたびに情報収集に心がけ情報は職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の現状や情報を職員全員で総合的に把握できるよう、日々、工夫し取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様、必要な関係者と情報を共有しあい、ご家族とは面会時に情報交換し、モニタリングやカンファレンスなどで常に現状にあったケアプランを作成している。	担当職員や他の職員、計画作成担当者、家族、医療職等と情報交換しながら、個々の利用者の現状に即した介護計画を作成し、必要に応じて評価・見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員で検討した介護記録を導入し、日々の記録情報を共有しながら実践や介護計画に活かしている。よりよい記録にする為、見直し・改善に取り組んでいる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様のご要望にこたえられるよう職員間でよく話し合い取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人やご家族様のご要望にこたえられるよう、各種機関とも連携し共存共栄を目指し支援できるよう推進している。ボランティアの方の受け入れも行なっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症治療病棟である隣接の森の里病院と協働し、必要な医療アプローチを実施している。	隣接する協力医のほか、本人・家族の希望に応じてこれまでのかかりつけ医への受診支援や訪問歯科など、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が一人配置されており、隣接する森の里病院と協働し、必要な医療アプローチを実施している。変化があった場合は、夜間問わず連絡を取り相談、指示を受けている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	隣接する森の里病院と協働し、必要な医療アプローチを実施している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取りに係る指針を通じて、利用者様、ご家族様の意向を重んじたケアに取り組む他、職員全員でその方針の実施に向け取り組んでいる。	利用に際しては看取りに係る指針について説明し、利用者、家族から同意を得ている。利用者の状態変化に応じて、その都度家族、職員、医療職が話し合い、ケア方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防や隣接する森の里病院でも救命講習を行なっている。応急処置や初期対応の知識を有していると思われるが、行動が伴うか不安はある。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会と合同で、年に2回の防火訓練等を行っており、利用者が安全に非難できるような措置をしている。	消防署の協力の下、年2回避難訓練を行っており、地域との協力体制も築いている。しかし、前回の避難訓練時には地域への連絡ミスがあり、地域住民から指摘されたところである。	地域との連携をさらに強化し、役割分担の明確化を図るとともに、災害時の食料・毛布等の備蓄を期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全体で話し合っているが十分とはいえない為、対応や個人情報について利用者様の尊厳を重んじ実施を心がけている	接遇委員会で研修を行い、利用者一人ひとりの尊厳を尊重したケアや接遇に取り組んでいる。おむつの保管方法などにも配慮する予定である。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	受容的な姿勢で接し、利用者様の小さい願いでも実現できるよう努力している。また、表現しづらい方へもその方の視点で思いや希望を理解するよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	笑顔のある安心した暮らしを理念とし、利用者様のペースで生活されるようなケアを実施している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の思いや希望を重んじ、それを大切にケアに向け取り組んでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様にあった力を活かし、好み等を把握しながら取り組んでいる。音楽をかけ穏やかな雰囲気作りをしたり、テーブルを拭いたり出来ることを一緒に行なっている	利用者の能力に応じて、調理の下ごしらえや後片付けを職員とともに行っている。おやつづくりや外食を一緒に楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専従栄養師の元、一人一人の状態に合わせて量や形態を変えて提供し、それぞれに適したバランスを心がけ、状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態や利用者様の状況に応じた支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄パターンを把握し、失敗を減らし、習慣を活かした排泄となるよう支援している。	センター方式のシートで利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間誘導や声かけによって、トイレでの排泄に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、水分補給等の飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等を通じその予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんでいただけるよう、本人の意向を大切にしながら支援に向け努力している。しかし、安全面を考え、夕方・夜間は行っていない。	入浴は週3回を基本とし、利用者の希望に応じた入浴順や時間帯、気の合う利用者同士で入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のパターンや習慣を活かし、安眠していただけるような支援に向け努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導や書類等により、服薬についての知識を有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には、一人一人に役割や張り合いを持って生活していただけるよう、その実施に向け取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や場面作り等を大切に、戸外に自由に外出できるような支援を実施している。天気の良い日は外に散歩に出たり、外食や花見など全員を対象にした外出支援も行なっている。また、個別の要望に応じられるよう実施に向け取り組んでいる。	希望により個別の外出に応じたり、自然豊かな近隣を散歩している。外食・花見など全員参加の行事も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の状況等に応じ、金銭管理をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人等と、手紙や電話を通じ交流できるような支援を実施している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花や生き物のイラストを飾って季節感を感じていただいたり、落ち着いた気持ちになるような音楽をかけたり、温度や湿度にも心配りをしながら、生活感や季節感を取り入れ、居心地がよくなるよう工夫をしている。	明るく広々とした共用空間は、利用者が落ち着いて過ごせるようソファやテーブルの配置を工夫している。季節感のある装飾にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日々、利用者様や状況等にあった共用空間になるよう工夫している。ホールと廊下にソファやイスを置いて過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごしていただけるような工夫をしている。家族の写真・家具・趣味の本などを置き、ご家族にも協力いただきながら環境づくりをしている。	趣味の本や家族の写真、仏壇などを自由に持ち込み、個々に応じて、安全で居心地よく過ごせる居室となるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の混乱を防ぐような工夫を職員間で話し合い、安全かつ自立した生活が送れるよう支援し、個々の残存機能を活用していけるように工夫している。		